

ヤマザクラの接ぎ木マニュアル

作成；17/10/13 岩間

＊接ぎ木のポイント；

接ぎ木のための道具は、ナイフ、剪定鋏、接ぎテープ、接ぎ穂調整用台、クーラー、など簡単な道具で実施可能です。



活着を良くするためには切れ味の良いナイフが必要です。

次いで、実際に接ぎ木を始める時には、穂の調整、台木への切り込み入れを十分練習してから行う必要があります。

＊「居接ぎ」 台木を植えたままで接ぐ

＊「揚げ接ぎ」 台木を掘りあげて接ぐ

1. 枝接ぎ/切り接ぎ

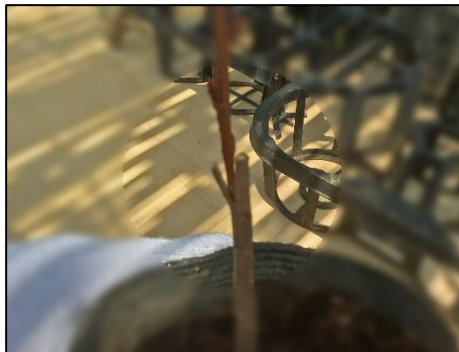
＊切り接ぎの特色；

1. 地際部に接ぎ木できる。
2. 接ぎ穂が長期間保存できる。
3. 「居接ぎ」よりも活着が劣るが、「揚げ接ぎ」も可能である。

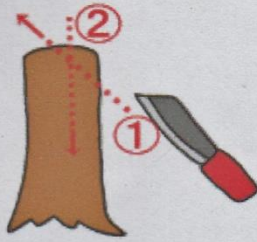


増やしたい枝は、1月中旬～2月上旬に切り取って保管し、2月下旬～3月中旬に土台となる木にしていきます。増やしたい枝には、芽が2～3個付くようにするのがポイントです。

1. 増やしたい枝を10～15cm切り取っておく
2. 増やしたい枝の切り口に湿った布を巻いてビニール袋に入れ、冷蔵庫で保管する
3. 種から育てた土台となる木を、株元から4～5cmほどのところで水平に切る
4. 土台となる木を、外側から数mm内側の場所に、垂直に切り込みを入れる
5. 増やしたい枝の切り口を斜めに切り、差し込む部分の樹皮をナイフではぐ
6. 土台となる木の切り込みに、増やしたい枝を挿す
7. 枝と土台が密着するよう、接ぎ木テープを巻く
8. つなぎ合わせた部分を土に埋める
9. 土の表面を、寒冷紗（かんれいしゃ）などで覆う
10. 新芽が3cmほど伸びてきたら、元気のよいものを1つ残して、他を摘み取る
11. 土台から伸びている枝は、順次切り落としていく
12. 新芽が勢いよく伸びて枯れる心配がなくなったら、接ぎ木テープを切る

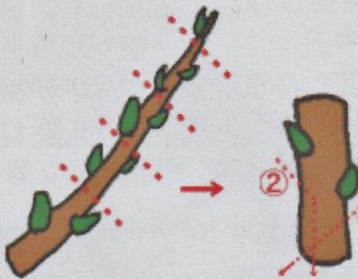


1. 台木を用意する



まず、台木を用意します。台木に使用するものは挿し木にのものが1年ほど育てたものを、タネをまいて育てたものなら2～3年生のものを選びます。3月頃に活動をはじめた頃のもの活着しやすいので、作業時期もおおのずとその時期になります。まず、根元あたりを残して上の部分をばっさりと切り落とします。次によく切れるナイフや切り出しで①のような角度、方向で斜めに切り上げます。①の切り口の中ほどから下に向かって3から4 cm切り込みを入れます(②)。切り込みを入れる位置は中心から少しずらした部分を薄く切るような感じで。

2. 穂木を用意する



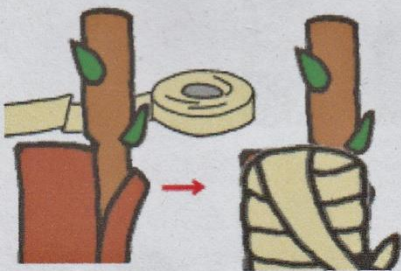
台木の用意ができたなら次にその上に接ぐ、穂木を用意します。穂木は、できるだけしっかりとした枝を選び、傷が付いていたり虫が付いている枝は避けるようにします。だいたい2芽～3芽を一つとして切り、左の図のように①→②の順番で切ります。その際②の切り込みの長さは、台木の切り込みの長さより少し長くなるようにそぎ切りします。

3. 穂木と台木をくっつける



次に台木の切り込みに穂木を差し込みます。このとき、それぞれの枝の断面がぴったりと重なるようにし、それぞれの表皮の部分と表皮の部分が継ぎ目なくぴったりと合わさるようにしましょう。断面のどちらか片側の表皮同士がぴったりとくっつけば問題ありません

4. 接ぎ木テープでまいたら完成



ぴったりと合わさったらずれないように手でおさえながら、接ぎ木テープをぐるぐると、しっかりまいていきます。接ぎ木テープは強く引っ張ると若干のびる性質のあるビニールテープで、園芸店やホームセンターなどで普通に手に入ります。下までぐるぐる巻いたら、台木のとっぺん部分にテープを一回まわして、下でかた結びします。たすき掛けの要領ですね

2. 芽接ぎ（剥ぎ接ぎ）

*芽接ぎの特色；

1. 接ぎ木部位が高くなる。（苗木を定植した場合、台木の枝が伸びやすい。 定植は接ぎ木部分を地中に埋める。 穂の自根を出させると親和性が悪い場合でも良く成長できる。）
2. 出来るだけ台木の近くに接ぎ穂の親木があると良い。
3. 切り接ぎより作業効率が良い。
4. 切り接ぎより活着率が良い。
5. 活着したかどうかの判定が早い。（活着しないものは 10 日程度で葉柄が変色・脱落する。）
6. 失敗しても翌年の春には「切り接ぎ」の台木として利用できる。

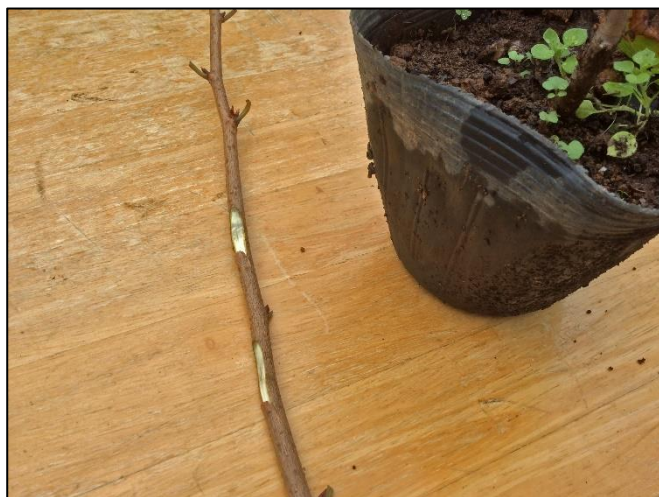
*時期は枝が固まって来た 9 月上旬です。

*接ぎ穂は接ぎ木直前の採捕が良く、親木が近くにあつと良い。採取した穂は切り口を水に浸し、クーラーなどで保管します。

*台木の大きさは切り接ぎと同じです。（当年生～1 年生位）

*接ぎ方は次のとおりです。

1. 接ぐのに邪魔な台木の枝、葉、ゴミなどを取り除く。
2. 穂の中から接ぐ芽（充実した芽）を決め、その葉芽を切除する。
葉柄は約 5mm 残して切除する。



3. 芽は上から下に、ナイフで長さ約 3cm 剥ぐ。この場合、内側に木質部、外側に芽・葉柄を付けて切断面を平面にする。
芽の真下は固いので注意してナイフを動かす。
切り取った芽を口にくわえる。



4. 台木の地際部に（下から約 5cm 位）接ぎ芽よりやや大き目に平面となるようナイフで切れ込みを入れる。



5. 切れ込みの外側上部 2/3 をナイフで切除する。

6. 台木の切れ込みの中に剥いだ芽を挿入する。



7. 台木と接ぎ芽の形成層を合わせる。

8. 接ぎテープで芽・葉柄を出して巻き込む。(隙間がないように)



＊接ぎ木後の管理；

1. 翌春、接木が成功していれば、接ぎ芽を残して台木の芽を除去する。
2. 接ぎ芽から伸び出した枝が長くなれば、接ぎ芽の上部の台木を剪定鋏で切除し、伸びた枝は台木からの剥離を防ぐために支柱で支える。

以上